



水木しげる文庫

(境港市)

安部実月

商店探訪

⑥

私は生れてからずっと鳥取県に住んでいます。正直、鳥取県の観光スポットには詳しくありません。あの有名な水木しげるロードだつて、昨年の秋、初めて訪れたぐらいなんです。そのとき、いろんな店を出たり入ったりしているうちに辿り着いたのが「水木しげる文庫」というお店です。

◆返金保証付きコロッケ
昨年の秋、最初に訪れたとき、水木し

げる文庫の目玉商品である「カニ入りグラタンコロッケ」が目に入りました。私が「おいしそう」と言うと、黒目さんは「食べてみて。おいしいと思わなかったら、お金全部払い戻すから」と自信満々で売ってくれました。食べてみると衣が香ばしく、中のグラタンはアツアツで、とてもおいしかったです。黒目さんが何故そんなに自信満々なのか、わかった気がしました。このカニ入りグラタンコロッケは、境港市水産加工大賞にも選ばれた一品です！

食べている途中、ふとお店のカウンター下を見ると、鬼太郎とねずみ男の絵が目にとまりました。黒目さんに尋ねる





■ (上段) 妖怪板ハガキを製作中のお客さん。(下段左) 水木しげる文庫の店頭で設置してある妖怪ポスト。(下段右) 水木しげるロードの目玉おやじ街灯。



■ 妖怪板ハガキ。下のねずみ男の板は智頭杉でできています。

と、その絵は水木しげるさんが直接壁に描いてくださったものだそうです。そういえば、絵の具が垂れた部分があります。みなさん、この店の前を通りかかったときは、見逃さないでください。

◆ 妖怪板ハガキ

店内に入ると、ゲゲゲの鬼太郎のキーホルダーや漫画本、Tシャツなど、鬼太郎グッズがたくさん置いてあります。

注目は、妖怪板ハガキです。このハガキは普通のハガキと違って木でできています。しかも鳥取県智頭町の名産、智頭杉という木を使ったものもあります。このハガキには、専用のポストが七つあり、入れたポストによって消印が違うそうです。



■ (上段) 店内には水木さんの本がたくさん置いてあります。(下段) 水木さんが店内の壁に描いた鬼太郎。

す。消印を見せてもらいましたが、とても可愛い消印でした。また、七つのポストのうち一つだけ特別のポストがあって、それに入れると届くのは五年後のお盆になるそうです。お盆はまさに妖怪の時期。水木しげるロードでは八月を盂在月と呼んでいます。しかし、なぜ五年後にしたのだろうと思いつ、黒目さんに聞くと、「五年後ぐらいがちょうど忘れたぐらいだから。忘れた頃にやってくるのっていいでしょ？」だそうです。確かに届いた時に「そういえばこんなハガキ書いていたなあ」と嬉しくなりますね。

この板ハガキに絵や文字を書く専用の机、ペンも店内に用意されています。普段ハガキを送ったりすることのない私は、そのハガキを見て、ふと誰かに送ってみたくなりました。五年後の自分を想像して書くのもいいですね。ちなみに、この板ハガキは板代が三八〇円、切手は定形外のため一二〇円、合計で五〇〇円かかります。

◆ 店名の由来

黒目さんのお話によると、水木しげるさんの名前をつけたお店は、この「水木しげる文庫」だけだそうです。現在、水木しげるロードにはたくさんのお店が並び、店内にはお土産品としてお菓子やキーホルダーなど、いろいろなグッズが置いてありますが、本来水木しげるさんは「本」なのだ！ ということで、水木しげるさんから名前をお借りして、それに「文庫」をつけて「水木しげる文庫」という店名にしたのだと教えてくれました。店内には水木しげるさんの本がたくさん並んでいます。



■いろいろな板ハガキが並んでいます。

店内の鬼太郎グッズを物色している
と、壁に鬼太郎の絵が描かれていること
に気が付きました。店頭にあった絵と同
じく、この絵も水木しげるさんが描いて
くださったそうです。

◆黒目さんと水木さんの関係？

店内には水木しげるさんと黒目さんの
二人が仲良く写っている写真が飾ってあ
りました。その写真をよく見ると、二人
は肩を組んでいるように見えますが、実
は水木さんが黒目さんの頭の後ろでこっ
そりげんこつを作っていることがわかり
ます。そのことについて黒目さんは「水
木先生はおちやめだからね」と笑って話
してくれました。確かに、水木しげる
ロードを歩いていて、水木さんの写真を
たくさん見ただけで、あっかんべーをし
て写っている写真もありました。子ども
らしい一面もあって、「なるほど」と納
得しました。

水木さん直筆の絵があることや、二人
が仲良く写るツーショット写真があるこ
とから、二人はどういう関係なんだろう

した。

◆黒目さんが登場する漫画

水木しげるさんのことをたくさん話し
てくれているとき、黒目さんは突然一冊
の漫画本を取り出してきました。驚いた
ことに、水木しげるさんは黒目さんを題
材にしたストーリーを漫画にしていたん
だとか！ 黒目さんが登場するのは『妖
怪博士の朝食2』という漫画本です。こ
の漫画では、黒目さんは川赤子という妖
怪になって登場し、水木しげるロードが
できるまでの経緯も少し描かれています。
「これこれ」と自身が登場している
場面を見せながら、黒目さんは「人に許
可も得ないで描くんだから……」とぶつ
ぶつ文句を言っていました。でもそんな
風に言いながらも、顔はとてもほころん
で嬉しそうでした。

もう一つ紹介したい本があります。そ
れは黒目さん自身が書いた『妖怪になり
そこなった男』という、題名もなんだか
魅力的な本です。この本は黒目さん自身
の波乱万丈のストーリーや、境港が妖怪

と疑問に思った私は、
黒目さんに尋ねてみま
した。黒目さんは「水
木先生とは兄弟みたい
なもんだよ」と言っ
ていました。実際に写真
に写る二人はとても親
しげで、本当に兄弟と
言ってもいいくらいで



の町へと変わっていく様子が書かれていま
す。またこの本には先ほど紹介した黒目
さんが登場する漫画も載っています。「水
木しげる文庫」にも試し読みのできるも
のがあったので、詳しい内容が知りたい
方は実際に読んでみてください。

また、水木しげるさんと親密な
仲の黒目さんは、毎年開かれる世
界妖怪会議に参加しているそうで
す。もちろん水木さんも参加して
います。世界妖怪会議と言われて
もどんな会議なのか全く想像がつか
ない私は、黒目さんに聞いてみ
ました。でも黒目さんは「テキトー
なことしか喋ってないよ」と笑っ
ていました。私は、妖怪って名前



がつくほどだから、妖怪のことが話され
ているんだろうと勝手に想像してしま
した。

今回、黒目さんに取材をさせて頂いて、
水木しげるロードの魅力だけでなく、水
木しげるさんの魅力まで知ることができ
ました。取材前は知らなかったんですが、
水木しげるさんにとっても親密な黒目さん
に取材できるなんて、とても運がよかつ
たなと思います。みなさんも水木しげる
ロードに行ったら、ぜひ「水木しげる文
庫」に立ち寄ってみてください。
(あべ・みづき／文化資源学系二年生)





仏教という教えが、大陸から日本という島国へ渡ったころ

伝来

虚仮

梵天と帝釈天という、仏教の守護を司っているふたりの神様が天界から日本へ降りてきました

ニホン？

大自然
た
な
ら
な
ー

雨と雷の天帝
帝釈天

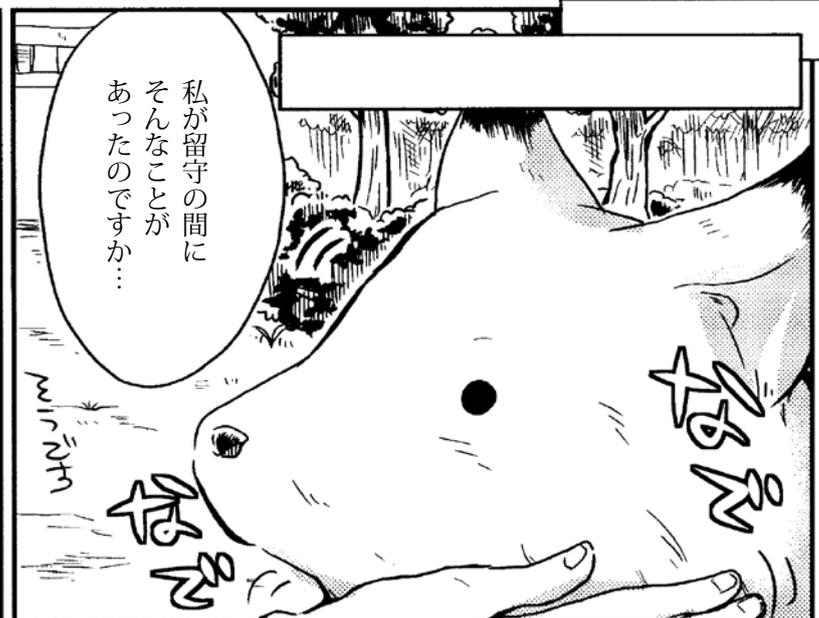
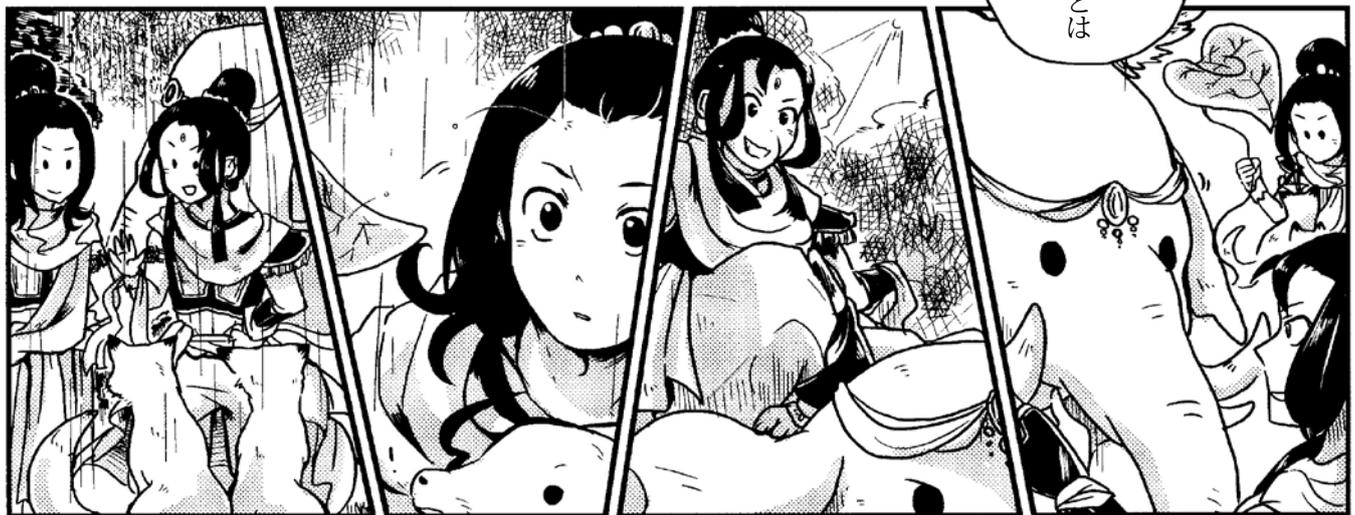
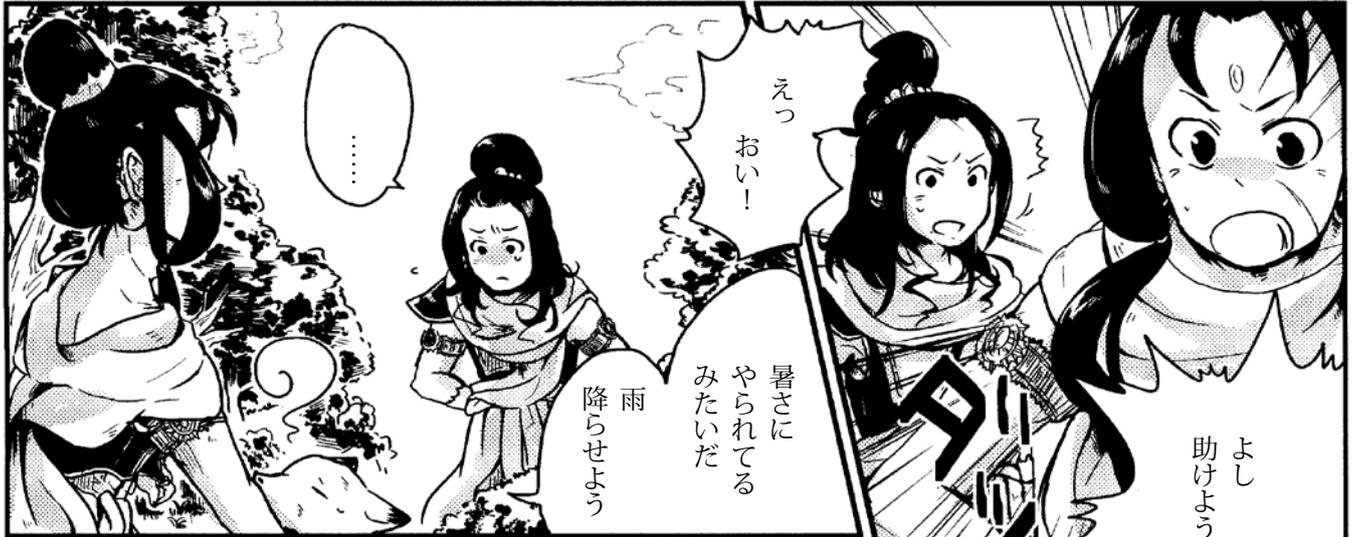
大陸も自然豊かな

天部の最高位
梵天

気候は穏やかだが四季の変化に富んでいるからな…

植物も過ごしやすいのだろう







穀物の神
ウカノミタマ
宇迦之御魂

おそろくスサノオも
気にしませんよ

それに
雷雨の神なら
この国に
もってこいですし

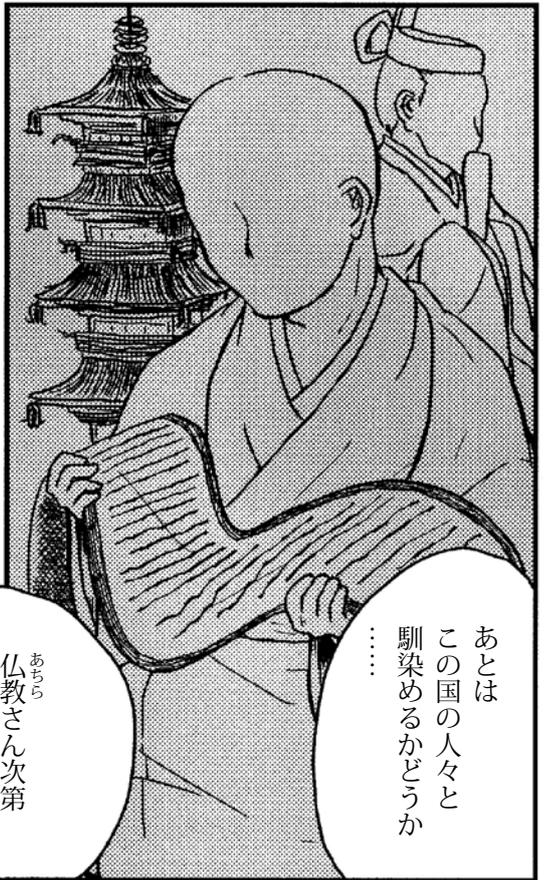


あなたたちを
救って
くださった
からね

何より、



では、
今日もこの国の
発展をねがって



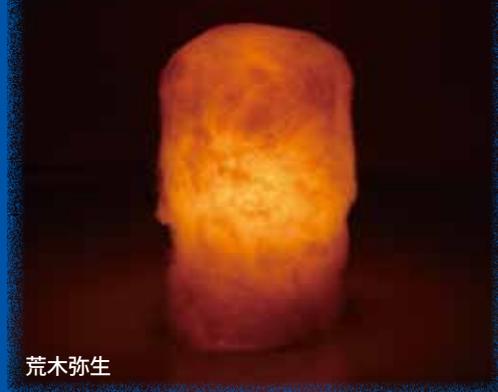
あちら
仏教さん次第
ですけどね

あとは
この国の人々と
馴染めるかどうか
……

終



野々村映美



荒木弥生



小林梨恵



吉田有希



西川あいり



榎本加奈子

光を楽しむ

～光の演出で住空間をデザインする～

私たちは、「建築デザイン実習」の授業の一環で照明をデザインし、製作にあたりました。照明を使用する部屋を思い浮かべ、一から製作していき、個性あふれる作品がそろいました。

(構成：西川陽子／文化資源学系 2 年生)



赤木瑛恵



岡田早紀



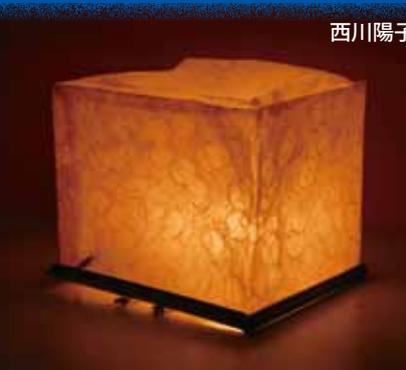
鳥井冴妃



森坂英加



仙田成美



西川陽子



安部比斗美

街のおもしろ 文化観察学入門

その六

鳥取編

田中美紀・井上佳子

六月二十五日。雨が降りそうで降らない。そして暑い。もう少しで夏!という天候の中、行ってきました鳥取市。

私は昨年『のんびり雲』の取材で鳥取市に行きました。ですが、それは鳥取砂丘の向こうの福部町に広がるラッキョウ畑。市街地には一切立ち寄らずでした。そして一年が経ち、今年は鳥取市の中心、鳥取駅周辺が目的地となりました。何かあるのかなと期待しながら短大を出発し、バスの旅約二時間半。ついに着きました鳥取市!

大きな傘?

駐車場でバスを降りて、初めて見る鳥取駅に興奮。鳥取駅南側駐車場でバスを降り、駅の中を通って北口に移動することになりました。駅に入ってまず驚いたのが、駅舎の天井から吊された大きな傘。何に使うのかというと、鳥取市の有名な祭り「しゃんしゃん祭り」の一斉踊りで使われる「しゃんしゃん傘」だそうです。普通の傘とは違って、とても色鮮やかで



■(上から)①大きな傘の下で記念撮影。②外に砂像を発見。③砂像の前で記念撮影。④やっと昼ごはん!

きれいな傘だったのですが、それもそのはず、鳥取県東部の伝統芸能「因幡の傘踊り」の傘を元にしたものだそうです。

竹の骨組みに和紙を張って、赤と青に塗られ、金と銀の短冊で飾られています。「しゃんしゃん」と音が鳴るように鈴もついていて、きつと見た目だけでなく音でもきれいな傘なのでしょう。あまりにきれいなので、傘の下に並んで記念撮影しました。

でも、こんなことでは終わりません。外に出ると、またまた鳥取らしく「砂像」がありました。はい、

記念撮影です。それは見事なもので、個人用にも写真をたくさん撮りました。王宮のような建物がとても細かく作られていて驚きました。砂像とは、文字通り砂で作られていて、大きなリアルな



■(上段) ペンの加工作業。(下段) あまりにもおしゃれな万年筆博士。

ものを作ろうと思うと、とても難しく、とても時間がかかるそうです。そして、裏側はまさか像になつていないだろう……と思っていた私たちは、裏に回ってみて仰天しました。王宮が続いているのはもちろんのこと、さらにラクダの像まであるではありませんか。可愛さから、またまた写真撮影です。駅の中から外までたくさん鳥取らしいものに出会うことができ、なかなか先に進めません。

お待ちかねのお昼休み

時計を見ると、とっくにお昼の時間。それに加えてバスの長旅で疲れていたの
で、育ち盛りの私たちは「おなかやすい
た」の大合唱。駅前の商店街の焼肉屋さ
んでランチメニューを頼み、お肉からご
飯から、スープからガツツリといただき
ました。食べるときにはみんな沈黙でし
た。よっぽどお腹がすいていたんでしょ
うね。

「元氣回復、よし、取材がんばるぞー」
と商店街を歩いていると、なんと！つい
三日前に導入されたというプリクラ機が
ありました。みんなノリノリで思い出づ
くり撮ろうとしましたが、編集長は時
間がないからと大反対。ですが、そんな
ことで引き下がる私たちではありません
。ハイテンションで撮影してすぐに落
書きを済ませ、最後にプリントされて出
てきた瞬間はみんな興奮しました。
そして、「よし！取材だ！」とやつと
取材に取りかかり、駅前の通りを歩いて

いたのですが……。 「あれ？雨？」。で
も、タイミングよく、百均の前にいたの
で、さつそく傘を買って取材を続行しま
した。

自分だけの万年筆

ほんの少し行ったところで、とてもお
しゃれな店を発見！ 入ってみることに
しました。そこは「万年筆博士」という
名の万年筆専門店でした。お店の方に理
由を説明し、お話を聞かせていただきま
した。

まず驚かされたのはそれぞれのお客様
に合った万年筆を作るためにチェック
シートが作られていること。内容として
は、書き方や筆圧、握る位置、書く角
度などがありました。何より驚いたのは、
進入角度までチェックするというこ
とです。進入角度とは、書く手の角度に
なるんですが、そんな細かいところまで
チェックして作ってもらえることに感心
しました。これはこのお店独自のもので、

その人に合わせてペン先を削って調整す
ることから、すぐに馴染み、使いやす
いということでした。

私自身、万年筆を買ってなかなかきれ
いに書くことができなくて苦戦したこと
があるので、これはとてもいい考えだ
なと思いました。軸やキャップの素材も
お客様で選ぶことができるそうです。本
当に世界でたったひとつだけの、自分
のための万年筆を作ってもらえること
ができて感動しました。私も、社会人にな
ったら自分だけの万年筆を作ってもら
いに鳥取に来ようと思います。

万年筆の軸やキャップの加工をしてお
られるところも見学させていただいた
のですが、とても細かい！ 万年筆の軸
やキャップを作るときには、万年筆自
体を回しながら削って形を作ります。不
器用で細かい作業をするとイライラし
てしまう私は、職人さんたちを見て本
当にすごいなと思いました。

このお店は手作りのペン立てなども置
いておられます。デザインが
とてもおしゃれでアンティ
ク、しかもその素材が鳥取名
産の二十世紀梨の木であつた
りと、ここにも驚かされま
した。ですが、まだまだ驚かさ
れることが……。なんと！

このお店には女性の万年筆職
人の方がいらっしやいま
した。女性の万年筆職人は世界
でも初めてだとか。まだ修行

中らしいのですが、作業しておられる姿
は本当にかっこよかったですし、同じ女性と
して、このような方に出会えたことに感
動しました。

なんでもはかれます！

本通り商店街を歩いていくと、道路の
向かい側に気になるお店を発見しまし
た。看板を見ると「計量器・測量機 楠
はかり店」とあります。ハカリ屋さん
なんて初体験の私たちは、どんなハカリ
が置いてあるのか想像が付きません。と
いうことで、早速お邪魔することにし
ました。

ぞろぞろと店内に入ると、奥から奥
様が出てこられたので、お話を伺いま
した。このお店、実は鳥取に一軒しか
ないハカ



■（上段・中段）とても集中して作業しておられます。（下段）手作りのペン立てです！



■世界で初めてと言われる女性の万年筆職人さん。



■ (右上段) 糖はかり店の正面。(右下段) 湿度計と測量器具。(左上段) 糖度計。(左中段) 砂時計。値段表に注目。(左下段) 昔ながらの器具が展示してあるガラスケース。

り屋さんで、一〇〇年以上も前からやっているそうです。ハカリの販売のほかに修理も行っていきます。そして、たばこ屋さんも兼ねているようです。

「はかれるものならなんでもあります」の言葉通り、菓屋さんを使う珍しい秤から、工事現場でときたま見かける測量器

具、果物の糖度計、小学生が理科の実験で使うような懐かしい温度計まで、たくさんハカリがあります。「これは何を測るのですか？」——気がつけば質問攻めになっていました。

一般向けよりも業者や役所に向けての販売が多いそうで、専門的な用途のハカ

リが多くそろっています。「これは売りのものじゃないの」とおっしゃる古い貴重なハカリもありました。「古いものが見たいのなら」と奥のガラスケースを見せて下さいました。天秤を持つ西洋の像。「インテリアに欲しい」と口々に言う私たち。価値がわかるようになってから出直します……。

「さて、そろそろ次へ向かいますか」と言っていると、あることに気がつきました。「あれ？一キロまで量れるものよりも二〇〇グラムまでしか量れない商品の方が値段が高いよ！」——そうです。一キロより二〇〇グラムを量る秤の方が、一分より三〇秒を計る砂時計の方が高いのです。少ないものはかるものほど精密さが求められるからだそうです。勉強になりました。

(たなか・みき／文化資源学系二年生)

憩いの場所

商店街をさらに歩いて行くと、大きな屋根のついた空間を見つけました。ここは、「パレットとっとり」というテナントミックス施設です。農産物直売所をはじめ、ネイルサロンやマッサージまで、いろいろなお店が入っています。二階の交流ホールではいろいろなイベントが開催され、地域の方の憩いの場所になっています。

入ってまず目に飛び込んできたのは「わらい地蔵」です。むむ？この名称どこかで聞いたことが……。昨年の「街



■ (右) パレットとっとり。(左) 私たちを温かく見守るわらい地蔵。

のおもしろ文化観察学入門・米子編」にも、「咲い地蔵」と呼ばれるお地蔵さんが登場しました。米子のものとの因果関係はわかりませんが、私たちを温かく見守ってくれているわらい地蔵さんと記念写真。思わず天気なんて忘れて笑顔になりました。人々に笑いと福を運んでくるといわれているそうです。

さて、何か面白いものはないかなあと施設内を探索していると、悲鳴ものすごい音が……。なんと濡れた靴で足を滑らせたと思われるご婦人が、階段を駆け落ちておられました！幸いけがはなさそうでしたが、肝を冷やしました。雨の

日の足元には要注意です。

アンニョン!

雨はますます激しくなってきました。アーケードをさらに歩いて行くと、「韓国」の文字を発見しました。お店の名前



■ (右) アンニョンの店内。(左上段) 韓国の商品を手を取る取材班。(左下段) イケメンのカレンダーを手にも、店の前でお店の方と記念撮影。



は「アンニョン」。韓国の食品・雑貨・婦人服のお店です。実はこのお店、私が街歩きの下見に訪れたときに目をつけていたお店です。というのも、私事ですが、ただいまK-POPにハマり中で、韓国にすぐく興味があったからです!

それはさておき、ワクワクしながら店内に入ると、所狭しと韓国の食品、雑貨、奥には衣料品も置いてあります。「韓国のお茶とお菓子試食会」で食べたものもちらほら……。店の奥に進むと店員さんがおられたので、お話を伺いました。

このお店は、韓流ブームに乗って韓国語を習いだした主婦グループで始めたそうです。店番は交代制。鳥取での韓国ドラマの撮影が相次ぐなど、韓国との距離が縮まった今、さらに盛り上げていきたいらと、お店をスタートさせました。今年の六月で一周年を迎えました。韓国語の先生もおられて、店内で韓国語講座も開かれるそうです。鳥取と韓国をつなぐ素敵なお店です。

「そうそう、これ見て頂戴」と言っている、なんてイケメン二人が写っているカレンダー!! 韓国の俳優さんかと思いきや、鳥取大学にきている韓国人留学生さんだそうです。私たちはこの日一



■ (上段) Cafe SOURCEの前で解説する井上。(下段) 独特な形をしたモニュメントの前で、ポーズを決める田中和泉。

番の大興奮です。しかもカレンダーは主婦の方の手作り! 非売品です。残念ながら本人たちには会えませんでした。耳よりな情報をゲット。イケメン留学生さんは、韓国ドラマ「アテナ——戦場の女神」のロケ地となった鳥取県中部を巡るバスツアーに、ガイド役として参加しているそうです。運が良ければ会えるかもしれません。

このアンニョンの近くにあるお店「Cafe SOURCE」。これも「アテナ」のロケ地として登場して、実際にドラマに登場した「アテナカレー」を販売しています。

これは何?

最後に発見したのがこのモニユメント。独特な形をしています。後で調べて

わかったのですが、この若桜橋の親柱は、約六〇年前に鳥取の市街地を焼き尽くした鳥取大火の復興のシンボルだそうです。

アーケードから出て、若桜橋の向こうへと足を延ばしたかったのですが、雨はどしゃ降り。バスの出発時間も迫っているということで、名残惜しいのですが、今回の取材はここでおしまいです。

今回の「街のおもしろ文化観察」は少し足を延ばして鳥取へ出かけましたが、実際に自分の足で歩いてみるとわからない面白さや発見がたくさんありました。「遠くからようこそ」と温かく迎えて下さった鳥取の皆さんとの出会いに感謝した一日でした。

(いのうえ・よしこ/文化資源学系二年生)

編集後記



バクの取材で、せっかくいとお話をたくさん聞かせていただいたのに、字数の関係ですべてを載せることが出来なかったのが残念でした。

獺は悪夢を食べるという伝説の生き物です。そのため獺頭の玉枕の中に入っている骨は、本当は何の動物のものなのかわかっていません。実は韓国のトラの骨ではないかという説もあるそうです。この話をお聞きしたときの、「お宝鑑定団に出してみたいけど、夢が終わっちゃう可能性もあるよね」という三宅さんの言葉が、一同の笑いを誘いました。

私は、取材に行く時期が編集部員の中で一番遅く、原稿が出来上がるのも遅かったです。すでに締切日が過ぎているにもかかわらず、写真の位置や大きさなど細かいことにこだわって、なかなかレイアウトが終わらない私に編集長から一言。「君はちよつと偏執的だな!」……失礼な! 編集長とバトルしながら、無事に記事完成させることが出来ました。(智恵)



よし! インタビューがんばるぞ!! と、意気込んで出発したバタデンの取材。行きの車中で話を聞いたのはたった一人でした。出雲大社前駅ではいったん降りて、駅周辺をぶらぶらすることに。ぜんざい餅、出雲大社参拝、ソフトクリームなど、歩きながらちよ

こつと観光も楽しみました。

「もはや取材じゃなくて観光だよな」と二人で突っ込みを入れながら、今回のバタデンの旅(?)を満喫しました。声を掛けるタイミングを逃し、さすがにこの調子だとネタが少ない……と危機感を感じたことも。乗客にいきなり声を掛けるのって、なかなか勇気いるよな〜と感じました。

『のんびり雲』の制作を通して、協力してくれた地域の人の暖かさを感じる事ができました。多くの人にこの情報誌を手にとってもらい、山陰の良さを感じてもらえれば嬉しいです。(裕子)



雲 昨年に続いて今年も『のんびり雲』の制作に関わることができて嬉しかったです。

今回は記事は書かず、イラストマップ担当ということになり、どのようになるのか心配でしたが、なんとか形にできてよかったです。描くことに思った以上に時間がかかったり、描き直したりしましたが、最終的にはそれぞれの記事の担当の人にも納得してもらえるものができました。わたしの描いたもので少しでも記事がはなやいでいれば幸いです。

また、今回は色々な取材に同行させてもらいました。和紙や製紙工場、街歩きなど、合わせて五カ所も行かせてもらいました。和紙を自分で漉かせてもらったり、初めて洋紙がつくられる所を見たりと、貴重な体験ばかりでした。取材は結構遠くに行ったりすることもあり、なん

だか慌ただしかったけれど、とても楽しかったです。ありがとうございました!(美恵子)



最初に取材のお願いに行つてから記事が出来上がるまで、約三ヶ月……。のんびり屋の私が担当した若月さんの記事は、雑誌の題名通り「のんびり」時間をかけて完成しました(笑)。

今回、若月さんには「紙」「雲」という字を書いていただきました。受け取りに伺った日は、お願いしていた期限を過ぎていたので、編集長と私は「若月さんは夜中に書道をするらしいから、きつと昨晩仕上げたんじゃないかな〜」なんて言いながらタパタパのドアを開けると、そこには筆を持った若月さんの姿が……(笑)。初めて見る若月さんの書道姿。書と真剣に向き合っているときの表情から、書道に対する想いが今まで以上に伝わってきました。

同時に、こうして早く取材に協力してくださる方がいるからこそ、雑誌が作れるのだということを実感しました。若月さん、本当にありがとうございました。ございました。

そして、編集長にタパタパランチをご馳走してもらった縁なのか、この編集後記も託していただき(笑)、とても楽しい雑誌制作活動になり

ました。『のんびり雲』に携わったみなさん、本当にお疲れ様でした。(尚子)



おかげさまで無事、ミニ区切り第五号を刊行することができました。毎回、「本当に今年もできるんだらうか?」「編集部員はちゃんと集まるんだらうか?」と不安を抱えながらスタートするのですが、今回はまるで逆の心配をしなけりませんでした。

これまでは二十人程度の学生編集部員でやってきたのですが、どうい風吹き回しか、今年は何んと、三十人を超える学生が参加したのです。「こんなにたくさんの方を抱えて、いったいどうなるんだらう……」と、しばらく途方に暮れていました。が、なんとかなるものなんですね、これが。

なかには、「OK、完成、もういい!」と言っても、しつこく粘る学生もいます。嬉しいんですね、これが。(大)

のんびり雲 第5号

2011年10月20日発行

編集 「のんびり雲」編集部

☑責任者: 大塚 茂
e-mail: s-otsuka@matsue.
u-shimane.ac.jp

発行 島根県立大学短期大学部

松江キャンパス

総合文化学科

〒690-0044

島根県松江市浜乃木7丁目24-2

TEL. 0852-26-5525 (代表)

FAX. 0852-21-8150

印刷 今井印刷株式会社

制作協力 小泉 凡 小倉佳代子

制作指導 鹿野一厚 大塚 茂